

12面から続く

ことが可能です。7歳6カ月になるまでに規定の接種間隔を守り、接種を完了してください。

3種混合とポリオの接種回数異なる場合は、保健センターにお問い合わせください。

●日本脳炎予防接種について

平成7年7月1日〜19年4月1日生まれの方は、20歳の誕生日の前日まで日本脳炎の定期予防接種を受けられます。

第1期の予防票は市内実施医療機関にあります。ご希望の方は母子健康手帳で不足回数を確認し、予防接種をお受けください。

また、小学4年生以上で第1期の追加接種までお済みの方は、第2期の接種が受けられます。第2期の予防票は、母子健康手帳をご用意のうえ保健センターへ申請してください。平成

7年7月1日〜10年4月1日生まれの方の第2期の予防票は、市内実施医療機関にあります。

●平成27年度の高齢者肺炎球菌ワクチン予防接種を実施中

平成28年3月31日まで 陽市内実施医療機関 四肺炎球菌ワクチン(ポリサッカライド)予防接種 陽市内在住で①または②に該当し初めて接種する方。

高齢者肺炎球菌ワクチン予防接種対象者

Table with 2 columns: 年齢 (Age) and 対象生年月日 (Target Birth Date Range). Rows include ages 65, 70, 75, 80, 85, 90, 95, 100 with corresponding date ranges.

\*市外で接種を希望される方は、事前にご連絡ください



講座・教室

◎ヘルシーキッキング「旬を食べよう! 夏野菜料理教室」

陽7月23日(木)、午前10時〜午後1時 陽増林地区センター 陽24人 陽500円 陽7月9日(木)から

◎楽しく作っておいしく食べよう! 「バランス料理教室」 陽7月22日(水)、午前10時〜

午後1時:保健センター ②8月5日(水)、午前10時〜午後1時

◎男の料理教室(3回コース) 7月9日(木)から

◎井料理をひと工夫 陽8月12日(水)・19日(水)・27日(水)

◎痛み予防教室「膝痛編」 陽8月4日(火)、午後2時〜3時

◎みんなで覚えよう! ハッポちゃん体操公開練習

陽7月28日(火) 陽荻島地区センター... 8月6日(木)

陽7月14日(火) 保健センター 陽7月23日(木) 桜井地区センター

陽8月3日(月) 保健センター 陽8月7日(金) 中央市民会館

陽7月14日(火) 保健センター 陽7月23日(木) 桜井地区センター

◎骨粗しょう症予防教室 (結果説明会) 陽7月14日(火) 保健センター

陽7月23日(木) 桜井地区センター 陽8月3日(月) 保健センター

陽8月7日(金) 中央市民会館

陽7月14日(火) 保健センター 陽7月23日(木) 桜井地区センター

陽8月3日(月) 保健センター 陽8月7日(金) 中央市民会館

陽7月14日(火) 保健センター 陽7月23日(木) 桜井地区センター

陽8月3日(月) 保健センター 陽8月7日(金) 中央市民会館

陽7月14日(火) 保健センター 陽7月23日(木) 桜井地区センター

陽8月3日(月) 保健センター 陽8月7日(金) 中央市民会館



越谷市医師会 きたこしキッズクリニック 973-0415

夏にみられる子どもの感染症

夏にみられる子どもの感染症のうち、「手足口病」や「ヘルパンギーナ」や「プール熱」(咽頭結膜熱)は、一般に「夏風邪」として知られてい

ます。「手足口病」は、主にコクサ

ッキーウィルスA16やエンテロウィルス71の感染が原因で、通常3〜6日の潜伏期間の後、その名の通り、主に手足に発疹が出て、口の中に水疱や潰瘍ができるのが特徴で、発熱は、無いか微熱程度のこと

が多いと言われています。「ヘルパンギーナ」は、主にコクサッキーウィルスA群の感染が原因で、通常3〜6日の潜伏期間の後、のどに痛みを伴う水疱や潰瘍ができるのが特徴で、急な発熱を伴うことが多くと言われています。

「ヘルプ水疱」+「ヘルパンギーナ」のどの炎症が名前の由来とされています。

「プール熱(咽頭結膜熱)」は、主にアデノウィルス3型

の感染が原因で、通常5〜7日の潜伏期間の後、その名の通り、のどの痛みなどの咽頭炎と結膜充血などの結膜炎の

症状がでるのが特徴で、発熱は4〜5日程度と長く続くことがあります。

いずれの病気もウイルスの感染が原因のため、主に細菌に対して作用する抗生物質は効果が期待できず、またそれぞれのウィルスに対する抗ウィルス薬もありません。

そのため、安静、適度の水分補給が必要に応じて解熱薬の使用など対症療法をしながら、自然治癒を待つのが基本になります。

ただし、時に、合併症などにより重い症状が出現することもあるため、その場合は、早めにかかりつけ医を受診するようにしてください。

症状がでるのが特徴で、発熱は4〜5日程度と長く続くことがあります。

いずれの病気もウイルスの感染が原因のため、主に細菌に対して作用する抗生物質は効果が期待できず、またそれぞれのウィルスに対する抗ウィルス薬もありません。

そのため、安静、適度の水分補給が必要に応じて解熱薬の使用など対症療法をしながら、自然治癒を待つのが基本になります。

ただし、時に、合併症などにより重い症状が出現することもあるため、その場合は、早めにかかりつけ医を受診するようにしてください。